

第3回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成21年度）

関口 忠司	栃木県那須烏山市 南那須地区広域行政事務組合立那須南病院 院長
<p>昭和53年、自治医科大卒。へき地医療拠点病院である那須南病院に20年に亙り勤務し地域医療の確保と向上に努めると共に、「栃木県へき地医療支援機構」設立当初から県のへき地医療の企画運営に主導的な役割を担う。また、自治医科大学の非常勤講師を務め、将来へき地医療を担う医師の養成に取り組む。</p>	
辻 博	富山県黒部市 黒部市民病院 理事
<p>昭和54年、自治医科大卒。県の4医療圏の1つである新川医療圏の中核病院である黒部市民病院に25年以上に亙り勤務し、農山村の医療確保・医療体制充実に尽くす。また、同病院の健康管理科の開設や健康管理センターの設立など、地域住民の病気予防にも精力的に取り組む。</p>	
高田 孝	石川県白山市 公立つるぎ病院 名誉院長
<p>昭和40年、金沢大学医学部卒。へき地医療拠点病院である公立つるぎ病院に32年に亙り勤務し、へき地医療の確保に中心的な役割を担う。冬期に豪雪で交通困難となる白峰地区への巡回診療を24年に亙り隔週で実施し、市町村合併で中止となった後も、地域住民の強い要望に応え、現在も隔週で診療支援にあたる。</p>	
河合 邦夫	福井県南条郡南越前町 河野診療所 所長
<p>昭和59年、自治医科大卒。平成5年に旧河野村のへき地診療所に就職し、無医地区における巡回診療を含め、16年に亙り、同地域における唯一の常勤医師として地域の医療の確保に尽くす。また、診療所の機能拡充、遠隔画像診断システムの導入など、高い水準の医療提供にも取り組む。</p>	
赤木 重典	京都府京丹後市 京丹後市立久美浜病院 副院長
<p>昭和53年、自治医科大卒。29年に亙り一貫して府北部でのへき地医療に従事。昭和62年から久美浜病院に勤務し、救急患者全例受入の実践活動から、すべての診察依頼に応えることを同病院の基本精神として広めたほか、院内の他職種や地域のさまざまな組織・人との協働を進め、住民が安心して暮らせる地域作りに注力している。</p>	
本永 英治	沖縄県宮古島市 沖縄県立宮古病院 医療部長
<p>昭和57年、自治医科大卒。伊是名診療所を皮切りに、西表西部診療所、八重山病院、さらに宮古病院に至るまで、通算19年に亙り離島医療に尽くす。宮古病院では、宮古地区全域の保健・医療・福祉等の各領域を網羅した地域連携協議会の会長としてより良い地域医療の実現に取り組むと共に、院内医師や研修医への指導・教育、学生の実習受入など後進の育成にも傾注する。</p>	